



2026（令和8）年度

南海トラフ地震と防災の未来を考えるシンポジウム

～地域の力を活かす災害対策と支援の実践～

本セミナーでは、南海トラフ地震に備えるための最新の知見と実践的な対応策を紹介します。地震対策や災害関連死の問題、避難生活における支援の重要性を取り上げ、地域防災力を高める方法について議論します。実際の現場から得た経験を基に、災害時の迅速かつ効果的な対応のコツを学び、被災自治体間の支援・受援の方法についても考えます。災害に備えるための実践的なノウハウを共有いたします。

日 時 2026年 **7月23日（木）**

開場 12:00 開演 13:00

会 場 大阪産業創造館 4F イベントホール （入場無料）

住所：大阪府大阪市中央区本町 1-4-5
電話：06-6264-9892

対 象 者 国及び近畿各府県の公共団体・機関の職員
定 員 120名

申込方法 パソコン・スマートフォンからお申込みください

パソコンの場合は下記の URL に直接アクセスしてください
<https://www.type-b.co.jp/reply/p1278330229/1070503725/>
スマートフォンの場合は、右記 QR コードを読み取ってください



2026年 **7月7日（火）** 締め切り

※定員になり次第、お申込み受付を終了いたします。

主 催 一般社団法人 近畿建設協会
後 援 国土交通省 近畿地方整備局
独立行政法人 都市再生機構 西日本支社
土木学会関西支部
インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム

事務局 株式会社 URリンケージ 西日本支社

E-mail : symposium@urlk.co.jp
TEL 06-6949-5736
FAX 06-6949-5741

プログラム

13:00～

開会あいさつ

一般社団法人 近畿建設協会

理事長 谷本 光司

13:10～14:00

基調講演

「温故知新で大規模地震に備える」

講師 名古屋大学

名誉教授 福和 伸夫 氏

14:00～14:50

「災害関連死を防ぐために求められる視点」

講師 関西大学 社会安全学部

教授 奥村 与志弘 氏

14:50～15:05 〈休憩〉……………

15:05～15:45

「災害への備えと実際の現場対応について」

～“助けを借りる力”も防災力の一つ～

講師 輪島市 副市長 中前 豊 氏

15:45～16:25

「南海トラフ地震を見据えた

官民連携の支援」

講師 三重県 いなべ市 総務部防災課

課長補佐 大月 浩靖 氏

16:25～16:35 〈休憩〉……………

16:35～17:35

パネルディスカッション

コーディネーター

京都大学大学院

教授 藤井 聡 氏



Osaka Metro「中央線」堺筋本町駅下車 徒歩約5分
Osaka Metro「堺筋線」堺筋本町駅下車 徒歩約5分

講師と講演概要

《基調講演》 名古屋大学 名誉教授 福和 伸夫 氏



演 題：「温故知新で大規模地震に備える」

講演概要：昨年、南海トラフ地震と首都直下地震の被害想定の見直し、防災庁の設置、成長戦略会議における危機管理投資など、防災・減災に関わる様々な施策が検討された。また、トカラ列島、カムチャッカ半島、三陸沖、青森県東方沖、などで地震が発生した。国難級の大規模地震が切迫する中、過去の地震災害に学び、現代社会を点検し、将来に備える必要がある。本講義では、温故知新と居安思危の態度で転禍為福を成し遂げる方策を考えたい。

略 歴：名古屋大学大学院修了後、民間建設会社の研究室で10年間勤務の後、名古屋大学に異動。工学部建築学教室、先端技術共同研究センター、環境学研究科、減災連携研究センターなどを経て、定年退職。専門は建築耐震工学、地震工学。現在は、国や自治体の防災施策の立案に関わりつつ、地域の防災・減災活動を実践。近年は、産業防災や災害医療、防災教育などを通し、地域の事前防災の推進に注力。

《講演1》 関西大学 社会安全学部 奥村 与志弘 氏



演 題：「災害関連死を防ぐために求められる視点」

講演概要：南海トラフ巨大地震では、最悪の場合、数万人規模の災害関連死が発生する可能性がある。災害関連死は、避難生活の長期化や生活環境の変化、医療・福祉サービスの不足など、複数の要因が重なり合うことによって生じるものであり、社会の幅広い領域と関連づけて捉える必要がある。本講演では、こうした災害関連死の特徴を踏まえ、被災時の対応力の強化にとどまらず、平時の社会のあり方や企業・地域の価値創出にもつながる視点について整理する。

略 歴：2003年3月京都大学工学部地球工学科卒業、2005年京都大学大学院工学研究科修士課程修了、2008年3月京都大学大学院情報学研究科博士課程修了（博士（情報学））。阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター主任研究員、京都大学大学院助教を経て、2017年4月より関西大学社会安全学部准教授、2022年4月より同教授。

《講演2》 石川県 輪島市 副市長 中前 豊 氏



演 題：「災害への備えと実際の現場対応について」 ～“助けを借りる力”も防災力の一つ～

講演概要：2007年の能登半島地震を教訓に災害対応を進めてきた。しかし令和6年能登半島地震では想定を超える被害を受け、想定通りの対応ができなかった。しかし、総括支援員や対口支援員、自衛隊、災害専門の支援団体等の支援を受けることにより体制を整えながら対応した。その際の対応状況や課題を共有する。

《講演3》 三重県 いなべ市 防災課 課長補佐 大月浩晴 氏



演 題：「南海トラフ地震を見据えた官民連携の支援」

講演概要：これまで東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨、西日本豪雨、能登半島地震など様々な被災地において災害対策本部支援に従事し、西日本豪雨、能登半島地震ではオール三重として、三重県内自治体職員が被災地支援を行ってきました。これまでの被災地での教訓を活かし、南海トラフ地震では支援側となるいなべ市において隣接する被災自治体に対し官民を含めどのような支援ができるか考察する。

高台に避難
してください

